

LEMONの學名に就て

田中, 長三郎
九州帝國大學農學部園藝學教室

<https://doi.org/10.15017/20718>

出版情報：九州帝國大學農學部學藝雜誌. 1 (2), pp.59-69, 1925-02. 九州帝國大學農學部
バージョン：
権利関係：

LEMON の學名に就て¹⁾

田 中 長 三 郎

(大正十四年一月六日受領)

著者は前號に掲げたる論著(17)に於て Lemon の學名として目下用うる所の *Citrus Limonia* OSBECK を排し, *Citrus Limon* BURM. を採用すべき事を提議したり, 蓋 SWINGLE (16) の前學名使用を提案したりし理由は OSBECK の *Citrus Limonia* の學名中廣東産 Na-mang と稱するもの以外に European lemon を含有せりと的前提に基けるものなるが, 著者の研究に據れば Canton lemon は實に European lemon と全然異なる種類たるのみならず, OSBECK の記行文中此兩者を混同せる點を發見せず, 依て *Citrus limonia* の學名は唯前者にのみ當嵌るものなるが故 European lemon には其 earliest valid name たる N. L. BURMANN の *Citrus Limon* を推稱せるなり。今此問題に關する複雑なる命名學上の疑義を茲に闡明せんと欲す。

先づ OSBECK の *Citrus limonia* が全然 Canton lemon のみを指せるものにして少しも European lemon を含まざる事を説明せんとす。何となれば若し SWINGLE の云ふ如くならば *Citrus limonia* の名を European lemon の學名として reserve し, Canton lemon には別名を下すを正しとすればなり。依て OSBECK (11) の原版に掲ぐる廣東産 Na-mang の記事を左に抄出す。

(p. 135) "Lämtjes trån, som bära små runda och mycket sura Citroner, på Chinesiska Namny kallade, hwilka burkas (gemenligen omogne) til Pounche i stället för Tamarinder eller wanliga Citroner, . . ."

『レームチエス樹, 小形圓形にして甚だ酸き lemon 果を結ぶ, 支那人之をナモン〔檸檬〕と稱し, Tamarind〔羅望子〕の代用として通常の Lemon の如く(普通未熟の儘)ポンスに使用す, 云々』

(p. 192) "Läm-tjes (*) (jämför p. 135) . . . Träden, som såldes uti krukor, woro sällre öfwer en alm höga, och til utseende som Citrontrån. . ."

"(*) Caulis teres, subscaber, cinereus, pallide striatus. Rami inordinati, patentes, reflexi, rarius spinosi. Ramuli spinis rectis, acutissimis, alternis vel ex alis ramulorum. Folia alterna, oblongo-lanceolata, petiolata, subcrenata. Petioli subalati, lineares".

1) 九州帝國大學農學部園藝學教室寄與第五。()内の番號は引用文献の順位なり。

『レームチエス樹, (135 頁参照) [前略] 樹は鉢植にして賣り居れるが其高さ一ヤール位に過ぎず, 而して其狀 Lemon の如し。云々

[脚註]『幹は圓鑄形にして稍粗面, 灰色を呈し, 淡色の線條あり。枝は序列なく, 開出し, 反曲し, 稀に刺あり。小枝は直刺ありて甚だ鋭, 刺は互生するか小枝の曲り角に生ず。葉は互生, 長橢圓狀披針形にして葉柄あり, 稍鈍鋸齒あり。葉柄は稍廣く, 線狀をなす。』

右の記相文は SWINGLE “applies very well to the lemon” と稱するも Lemon の葉は決して長橢圓狀披針形に非ず, 又葉柄の翼を全然缺如するが故決して “petioli subalati” と稱せらる事なし。然るに Canton Lemon は葉正に長橢圓又長橢圓狀披針形をなし線狀の翼葉あり。刺も亦 Lemon に比して極めて鋭し。即右の記相文は Canton Lemon には一も牴觸せざれども, European Lemon の記載としては不都合の點多し, 鋸齒の如きも Canton Lemon の方 more crenate なり。又廣東花戸は今も檸檬を鉢植として販賣し, 果實は廣東市場に現はるゝのみならず遠く香港まで搬出賣鬻げる事著者の親しく實見する所なり。

又 SWINGLE は “OSBECK evidently intended to include in this species the common lemon such as he saw growing in Spain, though he did not find them in China” と云ふも, 前掲の瑞典語本文を精讀せば OSBECK は common lemon を比較材料として Canton lemon を記述こそしたれ, 決して此兩者を混同又同一視したる點を認め得ざるべし。即 OSBECK の記述せる Canton lemon の記文は決して European lemon を含有せるに非ずと斷ずる事を得べし。

猶 OSBECK の Läm-tjes は廣東音にて Le-mu-tze と云ふを transcribe せるが如く, 其の漢字は里木子ならんと思はる。里木子 (Li-mu-tzū) は即黎檬子 (Canton lemon) の異名として廣東新語, 華夷花木鳥獸珍玩考 (廣州記引用) 等に使用せらるゝ所にして廣東方面の俗名なる事明かなり。又廣東には European lemon を産せざるに非ざるも極めて稀なり。

次に考究すべき種名は等しく 1768 年に發表せられたる MILLER の *Limon vulgaris* 並に N.L. BURMANN の *Citrus Limon* なり。

前種 *Limon vulgaris* MILL. は現在の *Citrus* 屬を *Aurantium*, *Citream* 及 *Limon* の三屬に分ちて設定したるものなるが, 此學名に對して二つの疑義あり, 即 (1) *Limon* は果して正當なる屬名なりや否や, (2) *vulgaris* は之を現用の *Citrus* に combine して使用し得るやの二點即之なり。

論議 (1) *Limon* は正當の屬名なりや否や, 或は單に binomial nomenclature 採用以前の諸版の慣用を受け繼ぎて用ゐたる種名にして, *vulgaris* 等は單に變種名たるに偶々 binomial

の形式なるが故に種の如く見ゆるに非ざるか。

考ふるに MILLER (10) の思想は LINNAEUS 以前より繼承せるものなるは眞にして, LINNAEUS が其 CLIFFORD 侯庭園に於ける研究に基き柑橘を二種となせしに反し, 其先驅者たる TOURNEFORT¹ が柑橘を三類に分てるに従ひたるものなり。而して TOURNEFORT (19) の三類は明に屬にして種に非ず, 且又柑橘全類を三分するの思想は更に古く FERRARIUS (6) に基くものにして, 其柑橘三類 *Malum citreum*, *Malum limonum*, 及 *Malum aurantium* を HESPERIDES の三女神 AEGLE, ARETHUSA, 及 HESPERTHUSA に擬したるに始るものなり。斯の如くにして TOURNEFORT の三屬は各々少くも幾何かの異種を含有し, MILLER の *Limon* 亦 *Limon spinosum* (即ち Lime) *Limon racemosum* (一種の畸形品類) 等の “species” [と明記す] を含むが故に, 此の屬名 *Limon* は假令 pre-Linnean genus なりと雖も MILLER は明に屬として使用せるものなりと斷ず可し。即 *Limon vulgaris* MILL. は正當なる種にして之を別屬に移さんとすれば *vulgaris* を移行せしめざる可からず。故に *Citrus Limon* (MILL.) の如き combination は假令 TARGIONI (18) の使用せる synonym 中に發見する所なるも是有り得べからざる事なり。若し *Citrus Limon* n.sp. を設定すとか, 或は STEUDEL (15) の synonym として使用せし如く *Citrus Limon* HORT. として活用するならば謂なきに非ざるも, 今日多數の先着命名ある以上到底其の成立は望む可くもあらざるなり, 況や homonym *Citrus Limon* BURM. の存在あるをや。

論議 (2) *Limon vulgaris* MILL. は適法の種なりとして之を *Citrus* 屬に移し, *Citrus vulgaris* (MILL.) n. comb. とす事可能なりや否や。

現用命名規約 (13) 第 27 款に従へば, 新 combination をなす場合に既に該屬に homonym の存在する以上は不成立に終るものにして, *Citrus vulgaris* (MILL.) も既に homonym *Citrus vulgaris* RISSO の存在する以上成立せざるは當然なり。尤も後者は現今 *Citrus Aurantium* LINN (Sour orange) の異名として廢棄せられたりとは云へ決して消滅せしには非ず, 即此 combination は結局不成立の止むなきなり。蓋是等の點は Wien Code の最大特點にして, 此間の消息に通ずる REHDER (13) の明確に指示する所なり。

次に *Citrus Limon* BURM. に就きて考査を加へざる可からず。今左に BURMANN (5) 記説の全文を抄出して之を論ぜんと欲す。

[Flora Indica p. 173]

“CITRUS (*Limon*) petiolis linearibus. Linn. sp. 1100.

Limonia malus silvestris zeylanica, fructu pumilo, seu Limones sylvestres. Burm. zeyl. 43. t. 65. f. I.

Limonellus cum varietatibus. Rumph. amb. 2. p. 106. t. 29. &c.

Malus Limonia acida. Bauh. pin. 436.

Crandang malaice Javanis.

Habitat in India & Europe".

本文は一見 LINNAEUS の記事其儘の引用を主項とせる *nomen nudum* の如く見ゆるも、LINNAEUS は決して *Citrus Limon* なる種を設定したる事なく、従て本種は LINNAEUS の *Species Plantarum* に設定したる *Citrus Medica* β *Limon* の *new combination* なりと見做すを至當となすべし。而して此の場合に “*petiolis linearibus*” の字句は單なる引用句なりや、或は著者の記相文なりやは先づ第一に決定せざる可からざる問題なり。今之を論議 (1) に於て評論し、次で (2) LINNAEUS の *Limon* は *lemon* のみを意味するや否や、(3) BURMANN は果して *lemon* を記せるか、少くも本文に *lemon* を含有せしめ居れるや否や等の問題に就き審議せんと欲す。

論議 (1) “*petiolis linearibus*” の字句は BURMANN 自身の記説なりや將又 LINNAEUS の字句を引用せるものなりや。

第一上記の書き振より論ずれば “*Citrus petiolis linearibus*” は一の接續せる文章にして本植物の名稱なり、(*Limon*) は此名稱に與へたる『種名』にして此の種の記法は LINNAEUS の *Species plantarum*、或は 其當時の著述に一貫する慣例なり。而して引據する *Linn. sp.* には同一の名稱 “*Citrus petiolis linearibus*” [葉柄線狀なる柑橘] に對して *Medica* なる『種名』を附與せるが故強ち上記の一節は LINNAEUS の著述より引據せりとのみ解すべくも非ざるなり。即左に BURMANN の引ける *Linn. sp.* 1100 即 LINNAEUS (9) の *Species plantarum* 第二版 (1762) p. 1100 の關係全節を抄出して参考に供す。

“*Medica. I. CITRUS petiolis linearibus. Hort. cliff. 379. Hort. ups. 236. Mat. med. 366. Roy. lugdb. 266.*

Malus Medica. Bauh. pin. 435.

Limon β . *Limon vulgaris Ferr. hesp. 193.*

Malus Limonia acida. Bauh. pin. 436.

Habitat in. Asia, Media, Assyria, Persia.

Varietales hujus hodie numerosissimae una cum segenti mixtae, de quibus Hesperides consulendae.”

欄外の *Medica*、及 *Limon* は今日種名又は變種名と解せらるゝもの本文に於ける LINNAEUS の柑橘第一類の名稱は依然 “*CITRUS petiolis linearibus*” たるなり。而してこの名稱は本書初版に初めて附與せられたるに非ざる證として *Hortus Cliffortianus* 以下の文献を引用せるなり。又其の強ち *Hortus Cliffortianus* の原文を其儘引據せるに非ざる事は同書 (8) には全然種名を

與へず、*Citrus* を標題に挫え、種類として單に 1 及 2 を擧げ、其の記文として夫々 *Petiolum linealibus* 及 *Petiolis alatis* と記し、1 には其中の α [即 Citron] 及 β [即 Lemon] を設け、各記事なく唯引用書を記せる等全然體裁を異にせる事にも知らるるなり。又本文に於ても “Habitat” 以下の文章は第一種 (*Citron* 及 *Lemon*) 全體に掛り *Lemon* のみの記事に非ず。又 BURMANN の引據中にも “*Limonellus cum varietatibus*” の *cum varietatibus* は BURMANN の記入たるなり。即是等の事情を參酌して考ふるに、“*petiolis linearibus*” の字句は元來 LINNAEUS の始めて用ゐたる所なるも、BURMANN は之を借りて以て自家の種 *Citrus Limon* の記事に利用せりと考ふるを最も適當なりとす。即 *Citrus Limon* BURM. は *nomen subnudum* たるも *nomen nudum* とは稱し得ざるなり。

論議 (2) *Citrus Limon* BURM. の基礎となりたる LINNAEUS の *Citrus Medica* β *Limon* は *lemon* のみを意味し、他を含有せざるや。

今此の問題を解決するには (i) LINNAEUS の *type specimen* が記文と一致するや否や、(ii) LINNAEUS の引據せし種が正しく *Lemon* を示すや否や、(iii) LINNAEUS の本品を *Lemon* 以外のものと解釋せる説ありや否や等の三點に涉りて考究するを要す。

(i) LINNAEUS の *Type specimen* (London の *Linnean Society* 所藏) を檢するに其 *Citrus* 屬標本 6 葉中葉翼線狀をなすものは第一種に擬したる *Sweet orange* 一葉と *lemon* 一葉とより以外に存せず、而して前者を第一種即 *Citrus medica*²⁾ の位置に置けるは LINNAEUS の誤謬にして、今若し之を除かば “*Citrus petiolis linealibus*” に相當するは *Lemon* 以外に存せざるなり。

(ii) LINNAEUS の引據せし種が正しく *Lemon* を示すや否やを檢するに、第一種即 FERRARIUS の *Hesperides* p. 193 に記す所の *Limon vulgaris* は疑もなき *Lemon* にして p. 191 の記文、p. 193 の圖共によく之を證す。其圖は果實稍長形にして現在 Italy に栽培する *bimamillata* と云ふものに近似す。

第二種 BAUHINUS の *Malus Limonia acida* も亦 *lemon* に他ならざるが如し。即 *Pinax* 436、詳しく云へば *Pinax theatri botanici* 1623 年版 (2) p. 436 を見るに、

“Tum facie, tum facultate Citria referunt: cujus plures differentiae, quaedam oblongiores, asperiores, cortice crassiore, Cucumeris aut Melonis effigie, aut Limae Adversar. dicuntur: alii cortice laeviore tenuiore succoacidiorum”

2) *Medica* は *Media* 産の意義にて地名なる故小字にて記すを正しとなす。*Medica* なる屬名又人名使用せられし事なき故 *m* を大字となす理由なし。之に反し *Aurantium*, *Limon* 等は TOURNEFORT の屬名なる故大字となすは其理由あるなり。

『或は外貌より又性質より Citron に擬せられ居るも、夫とは大に異れり、或者は長楕圓形にして表面粗く外皮厚く、胡瓜狀又メロン狀をなし敵手 Lima と稱せらる。或者は外皮平滑にして軟く、多汁多酸なり。』〔次に其品種を擧ぐ。〕

とあり。即 Citron に似て長楕圓、粗面又は平滑、多汁多酸なるもの Lemon を除きて他にあるなし。又其の平滑品は Lime ならざるかの疑問を起さば起し得ざるに非ざるも、Lime は決して Citron に擬せらる可くも非ざる故本種は多くの學者の認むる如く Lemon なりと稱すべきなり。

(iii) LINNAEUS の *Citrus Medica* β *Limon* を Lemon 以外のものと解せる説ありや否やと云ふに、AITON (1) は之を Lime なりと記し、又 STURTEVANT (7) の如きも LINNAEUS は Lime を *Citrus medica* に含有せしめ居りと記せるあり。而して著者の實見する所に依れば LINNAEUS の Herbarium 中 Lime の標本二葉もあり。然るに Lime は “*Citrus petiolis linearibus*” に屬せず(翼葉小なれども顯著なり)、又其標本に限り LINNAEUS の慣例を破りて多數の自筆記事あり、之他の種は自ら記述出版せる故標本に何等説明を加ふるの要なきに Lime に限り自ら記述出版の違あらざりし故特に標本上其の管見を記し置けるに非ざるか。兎に角 LINNAEUS の全著述に涉りて幾何の調査をなすも Lime に相當する記述を發見し得ず、即 LINNAEUS は Lime を記述出版せざりしものにして、上記 AITON 及 STEUTVENT の如きは誤なりと曰はざる可からざるなり。

以上三點より推論せば LINNAEUS は正に其 β に Lemon のみの意味を與へ、心して Lemon に相當する引據のみを控えたりと云はざる可からず、即 BURMANN が之を Lemon なりと解して new combination をなし *Citrus Limon* 種を設定せるならば其行爲は極めて正當なりと謂ふ事を得べし。

論議 (3) BURMANN は果して正當に Lemon を檢し LINNAEUS の種に之を identify せるや、或は少くとも自己の檢したる種を Lemon と同種に屬すと解釋したるや。或は全然別種を Lemon なりと誤解して LINNAEUS の Lemon 學名を之に當嵌めんとしたるや。

此疑問を提起せる理由の主なるものは BURMANN の引據せし種中の一二は Lime (*Citrus aurantifolia* SWINGLE) たるが故にして、前記の提案を換言すれば、(i) BURMANN は正しく Lemon を見たるに係らず誤て Lime の文献を引用したるか、(ii) BURMANN の見たる所は Lime 或は Lemon 及 Lime 兩者にして之を同種に屬すと解したるや、(iii) Lime を Lemon なりと誤認し、Lemon の學名を誤て之に當嵌たるや、の三點なり。今之を論ずるに當りて BURMANN の引

用せる所を詳細に説明すべし。

N. L. BURMANN の第一に引用せる其兄 Johan BURMANN の著 *Zeyl.* 即 *Thesaurus Zeylanicus* (4) p. 143 [原文に 43 と記せるは誤] Tab. 65. fig. 1 は疑もなく Lime にして、其圖は花枝の頂端及葉腋に簇生する花序を畫き、葉は長卵形にして翼葉なく、葉腋に長刺あり。但圖の如き花序は柑橘の孰れの種にも存せざるものなるが、實際 Lime の花を検するに其の peduncle 甚だ短き故恰も pedicel は簇生するかを観あるなり。又翼葉は通常明瞭なるも圖位の大きさの葉にては往々顯著ならざるものあり、而も大體より見れば葉の形狀は宛然たる Lime にして決して他の柑橘とは思はれず。又圖の下に記せる Ceylon 俗名 Dehigbaha は黄色 Dehi の意にして、Dehi は今猶同島に於ては Lime の俗名なる事人の知る所なり。(例へば WILLIS (14) p.129 を見よ)。第二に引用せる RUMPHIUS の *amb.* 即 *Herbarium Amboinense* (15) vol 2. p. 107 [原文に p. 106 とあるは誤] tab. 29 は何なりやと云ふに、之亦 Lime なる事 BONAVIA (3) の考證を俟たずも明かにして nipis なる俗名今猶 Java 等にて Lime に用ゐらるゝなり。然るに BURMANN の “cum varietatibus” と云ふ *Limonellus* の變種、即 *Limonellus aurarius*, *Limonellus madurensis*, *Limonellus angulosus* 等は何ぞやと云ふに、總名は等しく *Limonellus* と云ふも各非常に異なる品にして、Lime, Lemon とは縁遠きものなり、然らば RUMPHIUS の *Limonellus* 各類中全然 Lemon を含有せずやと云ふに、其の tab. 29 には Lemon に類する果を畫きある事 BONAVIA の指摘する所なり (Atlas CCXXVII e and d 参照)。

第三の引用種 *Malus limonia acida* が Lemon にして恐らく Lime を含まざる可き事前掲の如し。

以上の前提を以て本論に入れば、

(i) BURMANN は果して印度に於て Lemon を見、之を LINNAEUS の記せる Limon と同一なりと解したるや。BURMANN の記事簡にして充分此點を明にせず。其の記せし Java 馬來語 Crandang と云ふも今日明かならず、抑々 Lemon が印度隨所に野生するや否やも疑問にして、嚴格に云へば何が故に BURMANN が Lemon を印度植物志中に加へたるか疑はしとせざるを得ざるなり、然れども彼が學識よりして Lemon を正當に理解せずとは到底考へ得られざるなり。

(ii) BURMANN の見たる所は主として Lime ならざるか。是印度に於ける Lime の分布状態より云へば最も首肯し易き點にして、若し印度植物志に柑橘を加ふるならば Lime を第一に擧ぐべき事論なきなり。然れども BURMANN が産地として印度及歐洲を擧げ居れるは其 Lime のみを意味するとせば頗る不利なり、何となれば Lime は FERRARIUS 等の記説なしとせざるも決して BURMANN の如き北歐植物家に著目せらるゝ程普通に栽培せられず、之に反し Lemon

は最も廣く知られ居ればなり。BURMANN は疑もなく印度に於て Lime を見たりしなるべし、然れども Lemon を見ざりしと云ふ反證も確存せざるなり。

(iii) BURMANN は全然 Lemon を記述をするの意志なく誤て Lemon の學名を使用したるか。之亦何等の證據なく、しか信すべき理由を認めず。

是等の諸點を綜合して考ふるに

- (1) BURMANN の引據する所は Lemon, Lime 及其他の柑橘を含む事。
- (2) BURMANN は LINNAEUS が Citron の變種なりと認めたる Lemon を種と認め之を昇格せしめたる事。
- (3) BURMANN の種は葉柄線狀にして印度及歐洲に産する事。
- (4) 以上の外 BURMANN の種が何なるかを決定する資料なき事。

等の理由により BURMANN の *Citrus Limon* に對して次の見解を下す事を得べし。

BURMANN は印度に於て Lime 或は恐らく栽培せられたる Lemon を見、(更に他の類似品をも見) 是等を皆同一の種に屬すと鑑定を下し、之を文献に徴して LINNAEUS の *Citrus Medica* β *Limon* が之に當ると考へ、種 *Citrus Limon* を設定せり、而して歐洲に産する Lemon をも之に含むと考へ種を限定する記文『葉柄線狀』を採用して主徴とせりと。

右の見解より *Citrus Limon* BURM. は之を Lemon の學名として valid なりとなす事は命名規約各條に照して違背せず、即今後此名稱の使用を推稱せる所以なり。Lime の學名としては既に valid なる *Limonia aurantifolia* CHRISTM. を Combine せる *Citrus aurantifolia* SWINGLE あり、且 Lime は葉翼線狀ならず又 LINNAEUS の *Citrus Medica* β *Limon* 中にも含まれ居らざる故に、今本學名を以て Lime に配する事不可能なるなり。

結 論

(1) Lemon, Lime, Canton Lemon の三種は各獨立の種にして、目下 Lemon の學名として使用せらるゝ *Citrus limonia* OSBECK は Canton Lemon 以外に何者をも含有すべからざる事。

(2) Lemon の學名として LINNAEUS の設定せし *Citrus Medica* β *Limon* は Lime を含有せず之を Lime なりと解釋し、或は此内に Lime を含むと考へたる諸説は誤謬なる事。

(3) Lemon を Citron (*Citrus medica* LINN.) より獨立せしめたる種名中最初のものは *Limon vulgaris* MILLER 及 *Citrus Limon* BURMANN あり、共に同一 date なる事。

(4) *Limon vulgaris* を *Citrus* 屬に編入して *Citrus vulgaris* となす事は Sour orange 學名の一

異名たる *Citrus vulgaris* RISSO に homonym となりて許されざる事。

(5) MILLER の *Limon* は正當の屬名なる故 *Citrus Limon* (MILL.) の如き combination は不可能なり、尤も *Citrus Limon* n. sp. 又 *Citrus Limon* HORT. を設定するは不可能に非ざるも、之より antedate の學名及 homonym の存在ある故成立不能たる事。

(6) *Citrus Limon* BURM. は其の引用文獻中に明瞭なる Lime 其他あり、又主として Lime を意味する如き觀あるも、其の LINNAEUS の Lemon 學名を正當に適用し、Lemon に該當する短肥種徴を具へ、且産地、引用書の大半等より本種は Lemon を含むと解する事最正當なる事。

(7) 以上の論據より Lemon 以外の種を意味する引文獻を除き、*Citrus Limon* BURM. を Lemon のみの學名として今後使用する事は命名規約の許す所にして、著者は之を推稱するものなり。

(大正十三年十二月稿)。

引用文獻

- (1) AITON, William. Hortus Kewensis. 2nd ed. enlarged by William Townsend AITON. London LONGMANN etc. 1810-1813. 5 vols.
- (2) BAUHINUS, Casparus. PINAE / THEATRI BOTANICI / CASPARI BAUHINI / Basileens. Archiatri & Professoris ordin. / sive / INDEX IN THEOPHRASTI DIOSCORIDIS / PLINII ET BOTANICORUM / qui à Seculo scripserunt. / . . . Basil, Lud. Ragis, MDCXXIII [1623].
- (3) BONAVIA, E. The cultivated oranges and lemons of India and Ceylon. London, W. H. ALLEN, 1888-1890. 2 vols.
- (4) BURMANN, Johan. THESAURUS / ZEYLANICUS, / exhibens / PLANTAS IN INSURA ZEYLANA NASCENTES; / Omnia Iconibus illustrata, ac descripta / CURA & STUDIO / JOANNIS BURMANNI, / . . . Amsterdam, J. WAESBERG & S. SCHOUTEN. MDCCLXXXVII. [1737]
- (5) BURMANN, Nicolai Laurenti. . . . / FLORA INDICA: / OUI ACCEDIT / SERIES / ZOOPHYTORUM INDICORUM / NEC NON / PRODRONUS / FLORAE CAPENSIS. Leiden. C. HAER. MDCCCLXVIII. [1786]
- (6) FERRARIUS, Giovanni Baptista. HESPERIDES / SIVE / DE MALORUM AUREORUM / CULTURA ET USU / Libri Quatuor / IO: BAPTISTAE FERRARII SFNENSIS / ... Rome, HERMANN SCHEUS, MDCLXVII [1647]
- (7) HEDRICK, U. P., editor. STURTEVANT'S notes on edible plants. Albany, N. Y., J. B. LYON Co. 1919
- (8) LINNAEUS, Carolus. HORTUS / OLIFORTIANUS / Plantas exhibens / QUAS / In Hortistam VIVIS quam SICCIS, / HARTE CAMPI in Hollandia, / COLUIT / VIRNOBILISSIMUS & GENEROSISSIMUS / GEORGIUS CLIFFORD / ... / AUCTORE / CAROLO LINNAEO, / ... Amsterdam, [no pub], 1737.

- (9) LINNAEUS, C. ... / SPECIES / PLANTARUM, / EXHIBENTES / PLANTAS RITE COGNITAS / AD/GENERE RELATAS / CUM/DIFFERENTIIS SPECIFICIS, / NOMINIBUS TRIBIALIBUS, / SYNONYMIS SELECTIS, / LOCIT NATALIBUS, / SECUNDUM / SYSTEMA SEXUALE / DIGESTAS/ ... / Editio Secunda, aucta. / ... Stockholm, L. SALVI, 1762.
- (10) MILLER, Philip. The gardeners dictionary... 8th ed. London, LIVINGTON etc. 1768.
- (11) OSBECK, Pehr. Dagbok / Öfwer en / Ostindisk / Resa / Åren 1750. 1751. 1752. / Med / Anmärkningar / Uti / Naturkunnigheten, främmande Folkslags Språk, Seder, / Hushållning m. m. / På Fleras åstundån / Utgifwen / Af / PEHR OSBECK. / . . . Stockholm, L. L.GREFING, 1757.
- (12) Règles internationales de la nomenclature botanique adoptées par le Congrès international de la nomenclature botanique de Vienne 1905. Deuxième édition mise au point d'après la décision du congrès international de botanique de Bruxelles 1910. Jena, G. FISCHER, 1912.
- (13) REHDER, Alfred. Historical development of botanical nomenclature. in BAILEY, L. H. Standard Cyclopaedia of horticulture. new ed. N. Y., McMILLAN, 1922. Vol. 4, p. 2102.
- (14) RUMPHIUS, Georg. Everhard. HERBARIUM / AMBOINENSE / Plurimascomplectens Arbores, Frutices, Herbes, Plantas terrestres / & aquaticas, / QUAE AMBOINA, / ET ADJACENTIBUS RPPERIUNTUR INSULIS, / Adcurantissime descriptas juxta earum formas, cum diversis denominationibus, / cultura, usi, ac virtutibus. / . . . Amsterdam, FR. CHANGUION, etc. M.DCC.XLI [1741].—M.DCC.L. [1750], 6 vols.
- (15) STEUDEL, Ernst. Nomenclator botanicus. Stuttgart & Tubingen, I. G. COTT. MDCCCXX [1821]
- (16) SWINGLE, Walter T. Citrus and Poncirus ... reprinted from SARGENT, C. S. Plantae Wilsonianae vol. II. 141-151. 1914.
- (17) TANAKA, Tyôzaburô 世界の主要柑橘類 [Sekai no shuyô kankitsurui] Principal species of Citrus fruits of the world. in 九州帝國大學農學部學藝雜誌 Bulteno Scienza Fak. Terkult. Kjusu Imp. Univ. vol. 1. no. 1, p. 20-32. Dec., 1924.
- (18) TARGIONI-TOZZETTI, Antonio. Corso di botanica medico-farmaceutica e di materia medica. Firenze, V. BATELLI, 1847
- (19) TOURNEFORT, Joseph Pitton. . . . / INSTITUTIONES / REI / HERBARIAE. / EDITIO ALTELA GALLICA / LONGE AUCTIOR, / . . . Paris, Typ. Reg., M.DCC. [1700]: 3 vols.
- (20) WILLIS, J. C. Revised catalogue of the indigenous flowering plants and ferns of Ceylon. Colombo, H. O. COTTLE, 1911. (Peradeniya Manual of botany, entomology, agriculture, and horticulture No. 2.)

ON THE SCIENTIFIC NAME OF LEMON

(Résumé)

Tyôzaburô TANAKA

- (1) Lemon, lime and Canton lemon are three independent botanical species, and *Citrus limonia* OSBECK given exclusively to the Canton lemon, is not applicable to the European lemon, despite its present use for both.
- (2) *Citrus medica* β *Limon* LINN. is the first scientific name given to the lemon, not including the lime. It is therefore erroneous to take it for lime or to think it involving lime, as is occasionally so misrepresented.
- (3) *Limon vulgaris* MILL. and *Citrus Limon* BURM. are names of lemon bearing the same date, and are equally the first binomials of lemon in the species rank raised from the previous subordinate position under citron.
- (4) The attempt to combine the former in the form of *Citrus vulgaris* is not permissible, on account of the existence of the homonym *Citrus vulgaris* RISSO, though this name is at present rejected as a synonym of *Citrus Aurantium* LINN., the sour orange.
- (5) It is likewise impossible to make use of such combinations as *Citrus Limon* (MILL.) TARGIONI or *Citrus Limon* HORT. ex STEUDEL, or otherwise creating *Citrus Limon* n. sp., for the sake of the existence of antedate names, at least the homonym *C. Limon* BURM.
- (6) Although *Citrus Limon* BURM. includes lime in its cited literatures and appears to mean lime, it is nevertheless correct to approve that it properly refers to the Linnean name of lemon, bears the right diagnostic character of lemon, and is backed by reasonable localities of occurrence and an authentic literature of lemon.
- (7) By these reasons, *Citrus Limon* BURM. (excl. a part of citations) is concluded as valid, and it does not contradict to any rule of botanical nomenclature in applying it for the name of common lemon. It is therefore recommended to use this name as the authoritative specific name of lemon.

Horticultural Institute,

Kyushu Imperial University.